FOA
FOOTBALL OFFICIALS ASSOCIATION JAPAN

FOA・EAST NEWS NO.3

1989.3.15

ライス・ボウルについて

服部　慎吾

現在、日本のフットボールの最大の試合は学生王座決定戦の「甲子園ボウル」と、学生王者と実業団及びクラブチームの王者の間で争はれる、真実日本の王座決定戦の「ライス・ボウル」の２つである。

甲子園ボウルは、戦後昭和２２年４月に慶応と同志社の間で第１回が行はれたのであるが、実際には関西では昭和２１年からリーグ戦が行はれ、同志社が優勝して関西代表となったのであるが、関東ではその年はまだリーグ戦が行はれていなく、対抗戦が数回あったのみで、関東の優勝校と云うものはなく、慶応が出場したのは招待試合の形式であったのであろう。従って、真の学生王座決定戦と云うのは、翌年の明治対関大戦を指すのが正しいかも知れない。

一方、「ライス・ボウル」は戦前の昭和１３年３月に発足した東西選抜対抗戦を起源としたもので、戦時中、中断していたものの復活である。これも戦前から関西に数チームが出来て、その勝者と関東の勝者との日本の王座決定戦とする計画の下に、暫定的に選抜戦としたもので、当時関西には関大しか学生チームがなかった為に、オールスターズ戦としたのである。

第１回こそ３月２１日に行はれたが、翌年からは１月１日に行うことにした。即ち、アメリカのボウル・ゲームと同日に行うのであるが、競技場は１年おきに関東と関西と云うことになっていた。これは当時元日には慶応対京大のラグビー戦が隔年に東と西で行はれていたので、慶京ラグビー戦が西である年はフットボールは東で行い、逆の時はフットボールが西に行くように重複を避けて挙行されていた。

それが戦争の為中断され、昭和２３年１月１７日に復活したのであるが、内容は多少違っていた。即ち、戦前は学生に限らずＯＢや外人等も選ばれて出場していたが、復活戦からは学生の選抜として、「東西学生選抜対抗戦」としたのである。それは、その当時、米国でもまだプロはあまり盛んでなく、学生のスポーツとして全盛であったのと、日本でも学生がやっと独り立ち出来るようになったその時に、ＯＢが出て来ると学生の意欲をそぐ様なことになり、将来の発展に不安があるのでそう決めたのである。事実学生は戦時中の浅い経験者と、戦後の未経験者ばかりで、ＯＢにはとても勝負にはならない位で、いろいろとＯＢが口を出しては混乱させられて困る、と云うようなことをコーチから聞いていたので、この際は学生に花をもたせる為にも学生選抜としたのである。

この「ライス・ボウル」復活の話が持上がったのは、戦後第１回の関東学生リーグ戦が行はれた、昭和２２年の１０月中旬であった。　当時、お茶の水にあった日本体育協会の会議室で理事会を開催した席で、議案として提出して満場一致で決定した。然し、これには経費がかかる。当時、関東連盟は無一文であったので費用を出してくれる後援者が必要であった。後援者には新聞社が最良である（当時はまだ民間放送がなかった）が、毎日新聞は甲子園ボウルを持っているのでライス・ボウルまでは持たないであろう、と云うことと、一つの新聞社に全部持ってもらうと云うことは、フットボールの将来の発展の為に支障があるおそれも考えて、毎日新聞社以外の新聞社に後援を依頼することにした。　毎日以外と云うと朝日か読売以外にはない。（サンケイはまだ東京に来て間もなく、東京は夕刊新聞であった）　従って、後援は朝日か読売に限定され、私と山片理事（昭和１６年慶応卒）の二人で朝日新聞社に織田運動部長を訪れ、戦前の事情を話し、ライス・ボウルの後援を依頼したが、織田部長は「主旨は良く解り後援したい気持はあるが、最近は労働組合が仲々うるさいので費用は出せないがメダル位は出せると思うからそれでどうだ」、と云うことであったが、それでは開催が出来ない。何しろ関西軍の旅費、宿泊費、競技場の使用料その他で少なくとも５万円位は必要であった。入場料の収入で一部は都合がつけられるが、どうしても２万５千円位は出してもらわなければ不安である。

それで朝日はあきらめて、その足で読売に行き宇野運動部長に逢ったが読売ではプロのスポーツは興味はあるが、アマチュアのスポーツは後援出来ない、とのすげない返事であった。それが変なもので読売がごく最近までライス・ボウルの後援をしていたのであるから、時代の流れと云うものは何が変るかわからない。　このような状態で後援者探しは八方ふさがりであった。　（続く）

（注：服部慎吾氏は、戦後、１９４８～５２年の日本協会理事長として活躍され、１９５４年、現審判協会の前身である審判部を設立された。川崎市麻生区在住）

ハンブルグから　(25th July.88)

鈴木　達彦

ハンブルグの７月は気温２０℃前後、ひどい時には１５℃位となり、日本の夏に慣れた私たち家族にとっては秋の様です。このところ毎日の様に夕方になると雨が降り、夜には暖房を入れ、日本から送ってもらったビデオの番組をみながら「もうオールスター、高校野球の季節だな」と日本に想いをよせています。

冬の間は朝８時頃まで、夕方は４時頃からすっかり暗い毎日で休みの日もどこに行く気にもなりませんでしたが、４月のイースターを過ぎると急に日が長くなり、木々は一斉に緑の葉をつけ、花が咲く素晴らしい天気となりました。しかし感激したのも束の間、７月になると前述したように、冴えない毎日となり、このまま夏も終るのかなと思っております。

当地でのスポーツはやはりサッカーがＮＯ．１でしょう。子供達のクラブからプロに至るまで盛んなようですが、日本での野球、アメリカのフットボールの様に人々の毎日の会話にでてくる訳でもなく、後述するようにテレビで頻繁に放映されるものでもありません。小生、ドイツの新聞を読んでいないこともあり、今ひとつぴんと来ない様です。

南米では、町中、至る所でサッカーボールであそぶ光景が見られる様ですが、そういうものにはあまりお目に掛かったこともありません。多分、それなりの広い練習場が整備されているのでしょうが。

サッカー以外では、テニス、スキー位がポピュラーでしょうが、日本ほど誰でもやるということはないみたいです。ゴルフ場も幾つかありますが、会員になるにはかなりのお金がいるので、一部上流階級の人々しか普及していません。

西独に駐留している米軍が持込んだフットボールは、幾つかの町で行われているようです。　小生はＹＵＳＥＮＡＩＲのハンブルグ支店で働いていますが、デッセルドルフ支店のドイツ人の女の子のボーイフレンドがフットボールをやっており、フランクフルトだとかベルリンのチームと試合をしたとの話を聞いたことがあります。しかし一般の人々に、どの程度、普及しているのか良く分かりません。

これまでの説明の中で「良く分かりません」と言う表現を使用しましたが、これはテレビでのスポーツ番組かの少なさが一つの原因ではないかと思います。スポーツ番組の少なさというよりテレビの番組自体が極めて少ないのです。

３つのチャンネルしかなく、どの局も午後からしか放送せず、ニュース、政治討論会、バイエルンの民族音楽番組、アメリカの中古映画、それと数少ないスポーツ番組（サッカー、またはテニス）これで全てです。コマーシャルに至っては日曜日の３０分間位のみ。日本の過剰ともいえるテレビ番組に慣れた私達にとっては全くつまらないものです。これは私のみならず、他の日本人も、皆、同意見です。

カルガリーの冬季五輪は毎日やっていましたが、我々の見る時間帯はボブスレーかスキー回転競技ばっかりでした。（土日もそうです）　フィギアースケートとかスピードスケートはいつの間にか終ってしまいました。多分真夜中にでも放送されたのでしょう。この分ではソウル・オリンピックの中継は、近代５種競技でもずっと放送するのかもしれません。

かくいう私も、毎日、ドイツのうまいビールを飲むばかりで運動は全くせず、太る一方です。そろそろジョギングでも始めないと、と思い出した此頃です。

住所：Godeffroystrabe 3 2000 Hamburg 55,West Germany

（注：鈴木氏からの便は昨年７月に受取ったものです。編集者の都合で掲載が遅れました。今ごろは、ドイツの新聞も読み、スリムになっていることと思います。）

”ＤＯ　ＹＯＵＲ　ＢＥＳＴ”

理事　　中村　浩視

昭和９年ポール・ラッシュ博士により、我が国にアメリカンフットボールが紹介されて、今年で５４年になります。当時の時代背景もありますが、アメリカに於ける国技であり、大統領のスポーツといわれるアメリカンフットボールを日本に紹介した真の目的の一つは、クルー駐日大使、トイスラー大主教、ポール・ラッシュ博士の間で語られていたことですが、近い将来、太平洋を挟むアメリカと日本は、良きパートナーとして、お互の立場を尊重したうえで、世界の平和と、人類の繁栄に協力しあえるものと信じ、両国のあらゆる分野の指導者がアメリカンフットボールという共通の話題をもつことが出来ればと考えていたのです。！アメリカンフットボールは、良きアメリカ人を作る！　とアメリカでは言われています。アメリカの人々は、このスポーツの為にあらゆる障害を乗り越えて、ファイナルスポーツと言われるまでに育てて来ました。

日本でも、最近は東京ドームを満員にする程の人気スポーツに成長して来ました。しかし、考えて見ますと日本で最初の試合は神宮競技場に、２万数千人の観客を集めて行なわれていたのです。

第２次世界大戦では、敵国のスポーツと言うことで、受難の時代を経過する事になりますが、これは他のスポーツも同じことが言えます。しかし、戦後他のスポーツは、苦しい中から立上がり組織の整備、競技の普及指導に全力を挙げて、法人化を行い（財）日本体育協会に加盟して、世界の晴舞台で活躍しているのはご承知の通りであります。それに引き換え我々のアメリカンフットボールの現状でありますが、任意団体であり、（財）日本体育協会に加盟し

ていない、と言うことは、文部省にも認知されないプライベートなスポーツなのであります。そこで、今何を成すべきなのか、関係者全員で考える必要があります。たとえば、地方への普及、低年令層へ競技人口の拡大、組織の整備、国際交流、協会機関紙の発刊、指導者の育成、等あげればいくらでもあります。

アメリカンフットボールの父、ボール・ラッシュ博士は、次の言葉を我々に遺してくれました。

”DO YOUR BEST
AND BE FIRST CLASS”

それぞれの分野で、それぞれの立場で、輝く将来の為に、その時出来る限りの事に最善を尽くそうではありませんか。

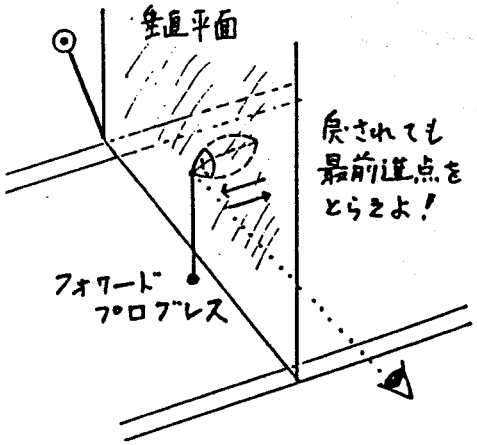
オフィシエイティングの基礎
（その2）

インストラクタ委員　坂井　淳

Ⅰ．フォワード・プログレスについて

フォワード・プログレスについて、若干補足します。フォワード・プログレスとは、ボールの最前進地点ですから、図に示すように、シリーズ更新線を瞬間的にでも越えてさえすれば、その時点で第1ダウンとなります。もし、これがゴールラインであれば、TDとなります。

審判員は、ボールがシリーズ更新線やゴールラインなどの垂直平面を破った瞬間をとらえなければなりません。このフォワード・プログレスの判定が、審判技術の極めて重要な基本であります。



Ⅱ．ＩＢとＯＢ

ＩＢかＯＢかの判定は、フォワード・プログレスの判定、パスの成功・不成功、計時、ＯＢによるブレーヤーの資格の有無などに関係します。良く勉強しましょう。

1．ブレーヤーのＯＢ　(4-2-1)
簡単にいうならば、ブレーヤーの身体がライン、またはライン外に触れるとＯＢ。

2．保持されてるボールのＯＢ　(4-2-2)
ＯＢブレーヤーが保持しているボールもＯＢとなる。

3．ボールのＯＢ　(4-2-3)
ボールはライン、またはライン外に触れるとＯＢ。
ボールが横切ったライン上がＯＢ地点。(4-2-4)

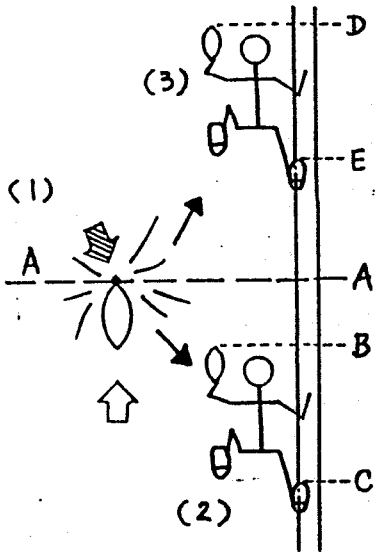
4．ボールの先端でＯＢ　(4-2-5)
ＯＢになった時、ボールの先端（フォワード・プログレス）がＯＢの地点となります。

5．サイドライン近くのブレー　（図参照）

(1) 完全にＩＢであるＡ点でコンタクト
→→ フォワード・プログレスはＡ点

(2) コンタクトの後、押し戻されてＯＢとなる。
Ｂ：ＯＢ時のボールの位置、Ｃ：ＯＢ時の足の位置
この場合＝Ａ点、またはそれより後方でＯＢになった場合（デッドになった場合）、Ａ点がフォワード・プログレスとなり、ＩＢでデッドとなる。

(3) Ａ点より前進し、ＯＢに出される。
Ｄ：ＯＢ時のボールの位置、Ｅ：ＯＢ時の足の位置
この場合＝Ａ点より前方でＯＢになった場合、フォワード・プログレスはＤ点であり、ＯＢである。Ｅ点はフォワード・プログレスではない。！！



(4) しかしながら、Ｄ点が明確でない場合、Ｅ点をフォワード・プログレスとして良い。

6．ブレーヤーのＯＢ
パスブレーやキックではブレーヤーのＯＢが重要な問題となる。ブレーヤーの出入りを良く見よう。！

7．フランク・オフィシャルとバックフィールド・オフィシャルとの連携
ＯＢかＩＢかの判定については、自分のサイドの審判員相互の連携が重要である。

(1) 譲り合わないこと。メカを習熟すること。
(2) 足を見ること。
(3) ＯＢ（タイムアウト）のシグナル、またはインコンプリートのシグナルを的確に出すこと。
(4) 異なった判定が出たらレフリーに判定してもらうこと。異なった判定が出ることを恐れてはならない。
(5) ブレーを予測し、サイドラインに来そうならば、それなりのディフェンスをしよう。

◆理事会報告◆

（文責）　喜入　　博

ＦＯＡ・ＥＡＳＴ・ＮＥＷＳ　ＮＯ．２に続き、第２３回以降の関東審判部理事会の内容の概要を報告します。議事録は公開資料ですので、詳細を知りたい方は各理事、または監事諸氏が所持している議事録を参照されく。

◆第２３回理事会（１９８８年８月４日）
- １９８８年度夏季クリニックの内容の確認。
- 保険契約の締結の報告。
- ＦＯＡバッグ、およびその他の装具の準備状況の報告と検討。
- グループ分けの再検討に関して検討。

◆第２４回理事会（１９８８年９月１６日）
- １９８９年度秋季公式戦の実施状況に関する報告。
- ＣＣＡ・ＶＴＲテープの配布先を検討し、理事、リーダ、インストラクタ委員と決定。
- ９月クリニックの内容を検討し、ケーススタディを中心とすることとした。
- 資格制度検討委員会の中間報告があった。今後、引続き検討することとした。
- 監査担当役員が必要との提案がされ、検討の結果、役員任期中途であるが、理事会から桜井、深川の両氏を推薦し、９月の会合で部員の承認を得ることとした。
- 規約改正に関しての意見を交換し、次回理事会にて、今後の方針を決めることとした。
- １９８８年度関東審判部総会決定に基づき、関東審判部次期役員選挙のスケジュールを決めた。

◆第２５回理事会（１９８８年１０月１４日）
- １９８９年度秋季公式戦の実施状況に関する報告。
- 関東審判部規約改正について検討し、現役員の任期が残り少ないこと、初めての改選選挙を実施することから、今年度の改正作業は実施せず来年度の新体制での作業依頼事項とした。引続き今後のために、現状と合っていない部分の纏めをし、記録として残した。
- 事務作業の効率化から岡本理事宅にワープロを設置することとした。

◆第２６回理事会（１９８８年１１月９日）
- ＣＣＡオフィシエイティング・マニュアルの日本版作成作業のスケジュール、体制を決めた。１９８９年３月までに作成し、４月の春季クリニックで部員説明を実施する。
  翻訳、訂正は公式規則担当の秋山、佐藤浩、田口、宮田、渡辺敬の諸氏に依頼することとした。
- 試合の記録、教育面における使用を目的として、ＶＴＲを購入することとした。取り敢えず１台購入し、様子をみて今後増加することとした。
- 次期役員候補を選ぶ推薦委員会の構成に関し検討し、各ブロック１５名当り１名を基準として、各ブロックより選出してもらうこととした。

◆第２７回理事会（１９８８年１２月９日）
- 秋季公式戦の試合状況について報告があった。トラブルが例年に比べ多くあり、幾つかのトラブルのそれぞれの対応に関し検討した。
- ルール委員会より、委員である喜入をＮＣＡＡルール委員会の会議に派遣することの報告があった。
- １９８８年度納会の段取りを検討した。
- 次期役員選挙のための推薦委員会の選出状況の報告が担当理事よりあった。今後のスケジュール等の検討を行った。
- 購入したＶＴＲ（８ｍ）を録画したバルサーボウルの試写を行った。映像もはっきりしており、今後、部内での活用は可能との評価であった。

◆第２８回理事会（１９８９年１月８日）
- 秋季試合のトラブルのその後の対応結果に関しての報告があった。
- １９８８年度納会に関する打合せを行った。納会の司会を佐藤繁樹氏に依頼すること、および招待者の決定を行った。
- 次期役員選挙のための推薦委員会の選出状況の報告が担当理事よりあった。
- 今後の方針等を検討する３月合宿の内容を検討し、出席対象者を新旧理事、新旧監事、ＩＤ、リーダとすることにした。担当理事が場所、日時等を検討、手配することとした。

◆第２９回理事会（１９８９年２月８日）
- １９８８年度納会の式次第・担当の最終確認を行った。
- ルール委員会からＮＣＡＡルール委員会に派遣された喜入より、会議の内容等の報告があった。
- ３月合宿の場所が清里に決定したことの報告があった。合宿内容に関する検討を行った。

ＦＯＡ・ＥＡＳＴ・ＮＥＷＳ　ＮＯ．３
日本アメリカンフットボール審判協会
関東審判部・機関紙
発　　行　：　１９８９年３月１５日
発行責任者　：　総務担当理事　喜入　　博
連　絡　先　：　ＴＥＬ　０３－３７１－３６７０